

平成 27 年度 第 4 回小松市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 27 年 12 月 15 日 (火)
開会 15 時 00 分 閉会 15 時 45 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司
小松市教育委員会
教 育 長 石黒 和彦
委 員 北村 嘉章
委 員 野田 美和子
委 員 蘆邊 千鶴子【欠席】
委 員 吉原 慎吾

(事務局関係)

総合政策部長	早松 利男
総合政策部 経営政策課長	藤井 勝司
総合政策部 経営政策課主査	太田 司
教育委員会事務局 シニアマネジャー兼青少年育成課長	柿本 欣也
教育委員会事務局 未来の教育課長	廣田 恵子
教育委員会事務局 学校教育課長	波佐尾 雅人
教育委員会事務局 青少年育成課担当課長	東谷 勝美
教育委員会事務局 教育庶務課長	前口 朗
教育委員会事務局 教育庶務課担当課長	池田 美和子

4 討議事項 教育大綱の実現に向けての今後の教育展開について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

教育大綱ができ、それに伴うアクションプランがある。大事なのは、途中でレビューを行い PDCA (Plan-Do-Check-Action) をまた回していくこと。教育では PDCA が難しいと、学校や教育委員会から聞くがそうではないと思う。一旦立ち止まってレビューし、次をまた考えていくことが重要。

○討議事項

教育大綱の実現に向けての今後の教育展開について

(教育長より概要説明)

- ・総合教育会議で扱う事項は大きく3点あり、その1つに“教育の諸条件の整備や地域の実情に応じた教育を行うための施策についての協議”がある。総合教育会議は教育委員会にとって追い風と考えている。現状をしっかりと理解し、これからの教育行政に反映していきたい。
- ・レビューということで、これまでの状況と今後について確認していきたい。教育においてこそPDCAが重要で、特にチェックとアクションが重要と考える。
- ・現時点でのチェックということで、本市教育の現状を確認したい。

現状として、子供たちは人間関係づくりがあまり得意ではないようである。また、不登校傾向の児童・生徒はここ数年約100名程度となっている。教員もここ10年で世代交代が進むことなどがある。

主な取組みとして、学力については今年度チャレンジスクールを実施し、若手教員の指導についてはスーパーバイザーを2名設置した。また、スクール・ソーシャル・ワーカーを小・中学校に1名ずつ配置して問題があればすぐに対応するなど、いずれも高い効果が現れている。市立高校も、英検準2級以上の合格者が増えており、大学進学も良い傾向にある。芸術コースでも塗師画伯に來校頂くなど、他県からも入学希望問合せが1,2件来ている。

- ・各学校の特色や士気を高めるため、新しいものを立ち上げることも重要と考えているが、各学校で展開している一般的な事項についても従来通り力を入れていきたい。また、今年は市P連（「小松市立学校PTA連合会」）との連携事業があり効果が現れているので来年度も協力し対応していきたいと考えている。

(【資料】に基づき、教育委員会事務局の各課長より説明)

- ・主な事業展開について、「中学生サミット」「こまつチャレンジスクール」「青少年健全育成大会」「子供歌舞伎“勸進帳”」「1校1プラン・スポチャレ」「適正規模検討委員会」についての現状や効果、今後期待される成果の説明。

〈議長：和田市長〉何か意見はないか

〈吉原委員〉大綱実現に向けてかなり形になってきたように感じる。現在の本市教育における弱点・課題を拾いつつ、今後どのように肉付けしていくかという課題はあるが、教育委員会全体としてやるべきことが明確になってきた。市長には予算の裏付けについて、強力なバックアップをお願いしたい。

〈野田委員〉「チャレンジスクール」が盛んに行われており、保護者からも喜ばれている。今後もさらに活発に増やしていきたいと考える。

〈北村委員〉大綱ができたことで、ある程度の方向性ができたように感じる。教育委員会だけでなく、市P連やPTAと連動していくことが子どもや市民達の視点に立った活動ができと思う。PTAの方々とも方向性を共有し、協働で学校に対し支援していく体制があ

ればと思う。自分も市Ｐ連の会長を務めたことがあるが、これまでの活動を継続するだけでなく、今学校に対して何ができるかということを考えることも必要ではなかろうか。学校と地域の架け橋になったり、また図書ボランティアのような形で学校ボランティアとして学校活動に協力していただくことも必要になってくるのではないかと思う。プレ総合教育会議の際に、未来の教育課の設置を市長にお願いした。できればここに核となる人員を１名でも増員をお願いしたい。

〈議長：和田市長〉今年から“未来の教育課”と“青少年育成課”を新たに設置し、とても良かったと感じている。

教育長が言われた教員の世代交代についてだが、若手教員が増えるのはある意味チャンスと思える。５年前に学校に iPad を導入した際は使えない先生が多かったが、これからはＩＣＴを活用できる先生が増えてくるということ。教育のあり方・進め方も変わってくると思う。“温故知新”ということで、これまでの教え方も大切にしつつ、新しい道具を活用した教え方や生徒とのコミュニケーションを逆の論理でお願いしたい。新しい指導の在り方を研究していくことが、学校教育課や未来の教育課の役割だと思う。ぜひそういう風にして、若い方々を鼓舞していただきたい。

チャレンジスクールも今後どう拡充していくか、またグローバル化が進むなかで日本が更に成長していくために、理科・算数をどんどん活用していかなければならない時代なので、保護者や地域の方々にも学んでいただく仕組みをどう作っていくかというのが“はつらつ学習”の考え方。そういう方向で展開していただくようぜひともお願いしたい。青少年健全育成大会はとても良いと思う。昔実施していた大会だと思うが、かつての大会の塗り直しではなく新しい形の大会を考えないといけないと思うが、本大会について何かご意見はないでしょうか。

〈北村委員〉青少年健全育成大会は、様々な団体が参加し市民全体で青少年を育成する良い事業だと思う。団体の表彰を通し、色んな取組みが紹介される良い機会になると思うのでとても期待している。先程の市長意見でプラス要素を伸ばすことが重要と言われたが、その通りだと思う。プラスを伸ばしていく環境を提示することも大切。

〈吉原委員〉ＰＴＡとの連動がこれから成果を上げていく上で不可欠と感じる。事業的にも似通ったものもあるし、また学校も先生が多忙ということもあるので、ＰＴＡや市Ｐ連との連動が必要と感じた。

〈野田委員〉今後退職する教員が増えていくなか、若い先生の得意分野を伸ばしつつ、年輩の先生からは色んなことを吸収していくなど、互いに補い合っていくことが重要。

〈議長：和田市長〉２５年後に残る仕事の種類は現在の半分と言われており、残る仕事に先生が入っている。教育のあり方も変わっていくのだと思う。未来の教育課は、未来をイメージし色んなことにチャレンジしてほしい。NEXT10年ビジョンを出させて頂き、様々なテーマがある中“環境”や“はつらつ学習”も大きく取り上げた。これからは環境が人類全体にとって重要なテーマ、環境教育も含め色々と新しい展開をお願いしたい。

〈石黒教育長〉 色んな視点でのご意見をいただき、総合教育会議の意義を実感した。総合教育会議での議論が重要で、この議論を通して教育が充実する。これからも様々なご意見をいただきたい。

○閉 会